

令和3年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考(時期・対象)	
1 学力向上 教材や指導法の工夫等により、家庭学習時間を確保するとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	①	教務課 進路指導課	授業評価アンケートにおけるBYOD活用についての肯定的な回答が77%あるものの、GIAGAスクール構想の実現に向けてと学習意欲の喚起につなげる必要がある。	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「授業等において情報機器が効果的に活用されて学習意欲が高まった」と回答する生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)	
	②			【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)	
	③			家庭学習は1日平均0.8時間であり、家庭学習の確保が図られていない。	【成果指標】 生徒が1日1時間以上の学習時間を確保している。	「家庭学習の1日平均1時間以上」と回答する生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	Classi学習時間集計 (随時／生徒対象)
	④			適切な質・量の課題を課すことができた教員は42%であり、課題設定において学習状況の把握と学力定着の支援が求められる。	【努力指標】 生徒個々の学習状況や定着を図るために適切な質・量の課題を課すことができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、定着を図る課題を課している」と回答する教員が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月／教員対象)
	学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法								
2 基本的生活習慣の確立 生徒の基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高める。	①	生徒課 保健相談課	スマートフォンの不適切な使用等の指導がなされ、いじめがなく安心して学校生活を送ることができている生徒が84%いるが、若干不安を抱える生徒も存在する。	【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	「学校はいじめに対しての取組や指導をしっかり行っている」と回答する生徒が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)	
	②			生徒のスマートフォン等使用時間は1日平均5.5時間であり、保護者と連携して、家庭内でのルール作りと確実な実行が求められる。	【成果指標】 スマートフォン等の学習外使用時間を生徒が主体的に制限することができる。	「スマートフォン等の使用時間の1日平均」の回答が A 4時間未満 B 4時間～5時間未満 C 5時間～6時間未満 D 6時間以上	C、Dは具体的な改善策を検討する。	生活習慣アンケート (1月)
	③			【努力指標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールを決め、ルールが守られている。	「家庭において、スマートフォン等の使用ルールが守られている」と回答する保護者が A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月／保護者対象)	
学校関係者評価委員会の評価								
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法								

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判断基準	備考(時期・対象)
3 外部との連携と進路意識の醸成 同窓会や地域との連携や情報発信に努め、生徒の進路意識を高め、進学や就職につなげる。	① 積極的な情報発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を利活用して、生徒の進路意識を高める。	進路課 総務課	1年生の進路意識が向上せず、機会を捉えて学ぶ意義を考えさせる。	【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未決定者を抑制する。	「1年未決定者を10%以内、2年を5%以下とすることについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	Cは具体的な改善策を検討する。	進路志望調査 (5月、9月、1月/生徒対象)
	②		昨年度の4年制大学進学者は9名、就職希望者の就職決定率は94%であった。	【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、4年制大学進学者、就職希望者の就職決定率100%を達成する。	「4年制大学進学者7名以上、就職希望者の就職決定率100%とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	Cは具体的な改善策を検討する。	進路実績
	③		コロナ禍において地域連携が希薄になっており、本校を地域に広く理解していただくためにも、学校の教育活動の積極的な情報発信に努める。	【努力指標】 ホームページの充実等により学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者が A 80%以上 B 70%~79% C 60%~69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/保護者対象)
	④		生徒89%、保護者99%の肯定的回答を得ているものの、転退学者が若干名いることを踏まえて、目的意識を持って高校生活を送ることが求められている。	【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったと満足度を一層向上する。	「本校に進学して良かった」と回答する生徒・保護者が A 80%以上 B 70%~79% C 60%~69% D 60%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/生徒・保護者対象)
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							
4 教職員の多忙化改善 時間管理を意識し、業務分担と協力体制により、業務の効率化を図る。	① 教員自らが働き方を見直し、担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につなげる。	教頭	昨年度の時間外勤務は月平均23.8時間であり、継続してワークライフバランスを意識することが求められている。	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/教員対象)
	②			【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「業務の割り振りや効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任が A 70%以上 B 60%~69% C 50%~59% D 50%未満	C、Dは具体的な改善策を検討する。	学校評価アンケート (7月、12月/主任教員対象)
学校関係者評価委員会の評価							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法							